

令和 7 年度第 9 期行田市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会評価・検証部会
令和 7 年 12 月 26 日（金）

第 9 期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

基本目標 1 誰もが住み慣れた地域でその人らしく人生の最期まで暮らせるよう、必要なサービス提供や 支援を行う体制を確保する。

重点目標

令和4年度のアンケートで、介護職員に不足があると回答した市内介護事業所数の割合（51%）を、令和8年度までに41%以下にする。

【重点事業】

目標

介護（看護）離職防止及び生産性の向上への取組支援

具体的な目標

・介護ロボットやICT機器の導入に関する情報提供を年1回行う

実施内容	令和6年度 実績	令和7年度 実績 <small>令和7年10月末現在</small>
介護ロボットやICT機器の導入に関する情報提供	厚生労働省主催「生産性向上の取組支援セミナー」の開催通知を市内介護事業所に電子メールで情報提供（R6.10月）	介護認定の審査状況確認がインターネット上のできる「介護認定進捗確認システム」を導入（R7.3月）し、居宅介護支援事業所等に周知し活用促進
	公益財団法人テクノエイド協会主催「介護テクノロジー等活用ミーティング」の開催通知を市内介護事業所に電子メールで情報提供（R6.10月）	国保中央会の提供する「ケアプランデータ連携システム」のライセンス料（最大3年間）及び初期導入費用の補助を開始（R7.4月）
	介護ロボットやICT支援システムの活用に関する展示会を視察し、資料を介護事業所が閲覧できるよう課内に配置	一般財団法人保健福祉広報協会の主催する「国際福祉機器展&フォーラム」（リアル展・Web展）のポスター掲示及びチラシ配架（R7.9月）

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

基本目標 1 誰もが住み慣れた地域でその人らしく人生の最期まで暮らせるよう、必要なサービス提供や 支援を行う体制を確保する。

重点目標

令和4年度のアンケートで、介護職員に不足があると回答した市内介護事業所数の割合（51%）を、令和8年度までに41%以下にする。

【重点事業】

目標

外国人介護人材採用の支援

具体的な目標

・採用方法、受入れの環境整備、外国人介護職員の声を聞く場を年1回開催する

実施内容	令和6年度 実績	令和7年度 実績 <small>令和7年10月末現在</small>
外国人介護職員の採用方法、受入れの環境整備に関する情報収集	<p>市内3施設（緑風苑、ふあみいゆ行田、まきば園）に、外国人介護職員の活用によるメリット・デメリット及び課題などの聞き取り(R6.10月)</p> <p>聞き取った内容について、「令和6年度在宅医療・介護連携推進事業 多職種合同意見交換会」で説明後、市内介護事業所へ情報提供 (R7.3月)</p>	<p>市内介護施設・事業所を対象に「介護人材に係るアンケート」を実施し、外国人職員の採用時期・人数・出身国又は出身地・外国人の採用が困難な場合の理由について調査 (R7.9月)</p> <p>介護事業所（令和6年度とは異なる事業所）の職員に、外国人介護職員の活用によるメリット・デメリット及び課題などの聞き取り予定</p>
外国人介護職員の声を聞く場の開催	<p>市内3施設（緑風苑、ふあみいゆ行田、まきば園）で働く外国人介護職員に、日常生活で困ったこと等の聞き取り (R6.10月)</p>	<p>介護事業所（令和6年度とは異なる事業所）で働く外国人介護職員に、日常生活で困ったこと等の聞き取り予定</p>

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

基本目標 1 誰もが住み慣れた地域でその人らしく人生の最期まで暮らせるよう、必要なサービス提供や 支援を行う体制を確保する。

重点目標

令和4年度のアンケートで、介護職員に不足があると回答した市内介護事業所数の割合（51%）を、令和8年度までに41%以下にする。

【重点事業】

目標

元気な高齢者等多様な人材の活用

具体的な目標

・ボランティアの活用を希望している介護（看護）事業所に対してシルバー人材センターや社会福祉協議会のボランティア事業を紹介する説明会を年1回開催する

実施内容	令和6年度 実績	令和7年度 実績 <small>令和7年10月末現在</small>
介護(看護)事業所に対して、シルバー人材センターや社会福祉協議会のボランティア事業を紹介する説明会開催	無資格でもできる業務に「シルバー人材センター」や「いきいき元気サポート」の人材を活用してもらうよう「令和6年度在宅医療・介護連携推進事業 多職種合同意見交換会」で説明後、市内介護(看護)事業所へ情報発信（R7.3月）	無資格でもできる業務に「シルバー人材センター」や「いきいき元気サポート」の人材を活用してもらうよう市内介護(看護)事業所へ情報発信予定 ※同左

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

基本目標 1 誰もが住み慣れた地域でその人らしく人生の最期まで暮らせるよう、必要なサービス提供や 支援を行う体制を確保する。

重点目標

令和4年度のアンケートで、介護職員に不足があると回答した市内介護事業所数の割合（51%）を、令和8年度までに41%以下にする。

【重点事業】

目標

就職支援、求職者（学生含む。）と介護（看護）事業所とのマッチング

具体的な目標

- ・介護・看護分野の就職又は進学につなげるため、介護に関する研修を市内外の高校生向けに年1回開催する
- ・小学生向けに高齢者への理解を深める事業を年1回、中学生向けに介護の仕事に関する魅力発信及び職場体験会を年2回実施する

実施内容		令和6年度 実績	令和7年度 実績 <small>令和7年10月末現在</small>
小・中・高校生向け事業		小中学生については、授業のカリキュラムへの組み込み方についてを、高校生については学生への効果的な実施方法についてを相談中	同左
行田市主催の「介護に関する入門的研修」開催	1回実施	修了者8名 就職者2名	修了者16名 参加事業所5事業所
介護(看護)事業所とのマッチング	1回実施	ハローワークとの共催による介護就職デイ面接会開催 参加者31名 採用人数3名	ハローワークとの共催による介護就職デイ面接会開催 ※11月13日(木)に実施。参加者等は、後日ハローワークから情報提供予定

基本目標 1 誰もが住み慣れた地域でその人らしく人生の最期まで暮らせるよう、必要なサービス提供や 支援を行う体制を確保する。

重点目標

令和4年度のアンケートで、介護職員に不足があると回答した市内介護事業所数の割合（51%）を、令和8年度までに41%以下にする。

【重点事業】

目標

認知症ケア体制を充実する

具体的な目標

- ・認知症カフェを 12か所にする
令和5年度 8か所
⇒ 令和8年度 12か所
- ・すべての認知症カフェ、あんしん声かけ体験（徘徊模擬訓練）に認知症サポーター養成講座修了者がボランティアとして参加する



実施内容	令和6年度 実績	令和7年度 実績 令和7年10月末現在
認知症カフェ数	10か所	11か所
認知症サポーター養成講座修了者がボランティアとして参加している認知症カフェ数	10か所中4か所	11か所中4か所
認知症サポーター養成講座修了者がボランティアとして参加したあんしん声かけ体験（徘徊模擬訓練）※数	あんしん声かけ体験実施数 0	あんしん声かけ体験実施数 ※12月19日（金）実施予定
※自治会等地域住民、認知症地域支援推進員、地域包括支援センター、市が協働で行うもの。		

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

介護人材確保に係る事業所アンケート

【概要】

- 実施目的 第9期計画において、重点目標とした「令和4年度のアンケートで、介護職員に不足があると回答した市内介護事業所数の割合（51%）を、令和8年度までに41%以下にする」の達成に向け、現時点での介護職員の不足状況を把握する。
- 実施時期 令和7年9月5日（金）～ 10月10日（金）
- 実施方法 電子申請・届出サービス（電子メールによる通知・無記名式）
- 対象 市内 120介護施設・事業所 ※業種が複数ある場合、複数カウント
- 回答率 56事業所（回答率46.7%）

【アンケート項目】

- ①貴施設（事業所）で、不足している職種は何ですか？職種ごとの不足人数を含め、入力ください。
- ②主な人材の募集方法
- ③離職防止・職場定着のために取り組んでいること
- ④人材の確保・定着面での悩み
- ⑤ボランティアの活用状況
- ⑥外国人職員の採用状況
- ⑦採用（予定）の外国人職員の出身国又は出身地
- ⑧介護職員の人材の確保に関し、貴施設等のお考えや行政に対する要望、ご意見（自由記載）

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

介護人材確保に係る事業所アンケート

【参考】 回答のあった施設・事業所の内訳

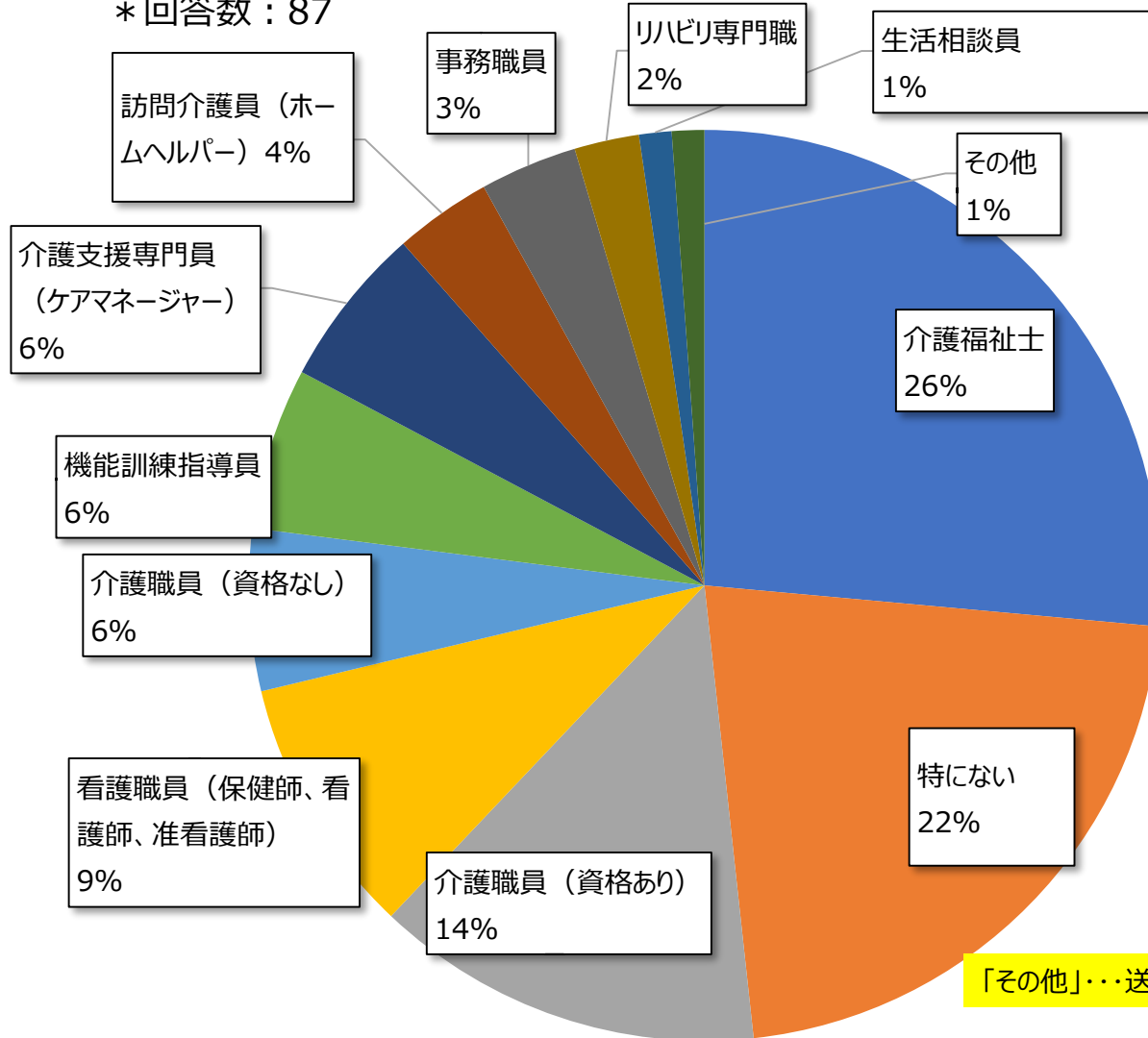
該当するサービス種別（介護予防を含む）	回答数
居宅介護支援事業所	11
通所介護（地域密着型含む）	10
訪問介護	8
特別養護老人ホーム（地域密着型含む）	6
特定施設入所者生活介護	4
地域包括支援センター（介護予防支援事業所）	2
短期入所生活介護（ショートステイ）	2
住宅型有料老人ホーム	2
サービス付き高齢者向け住宅	2
グループホーム（認知症対応型共同生活介護）	2
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1
通所型サービス（介護予防・日常生活支援総合事業）	1
通所リハビリテーション	1
小規模多機能型居宅介護	1
軽費老人ホーム（特定施設除く）	1
看護小規模多機能型居宅介護	1
介護老人保健施設	1
夜間対応型訪問介護	0
訪問入浴	0
訪問型サービス（介護予防・日常生活支援総合事業）	0
合計	56

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

介護人材確保に係る事業所アンケート

【問1】 貴施設（事業所）で、不足している職種は何ですか？ 職種ごとの不足人数を含め、入力ください。（複数回答可）

* 回答数：87



- ・介護福祉士、介護職員（資格あり）は、多くのサービス種別で不足が生じている。
- ・「特になし」の回答数19は、全体（回答のあった56事業所）のうち、33.9%であり、66.1%の事業所では、不足している職種が1つ以上あることになる。

【重点目標】

「令和4年度のアンケートで、介護職員に不足があると回答した市内介護事業所数の割合（51%）を、令和8年度までに41%以下にする。」としているところ、数値は後退している。

R4アンケート 51%



R7アンケート 66%

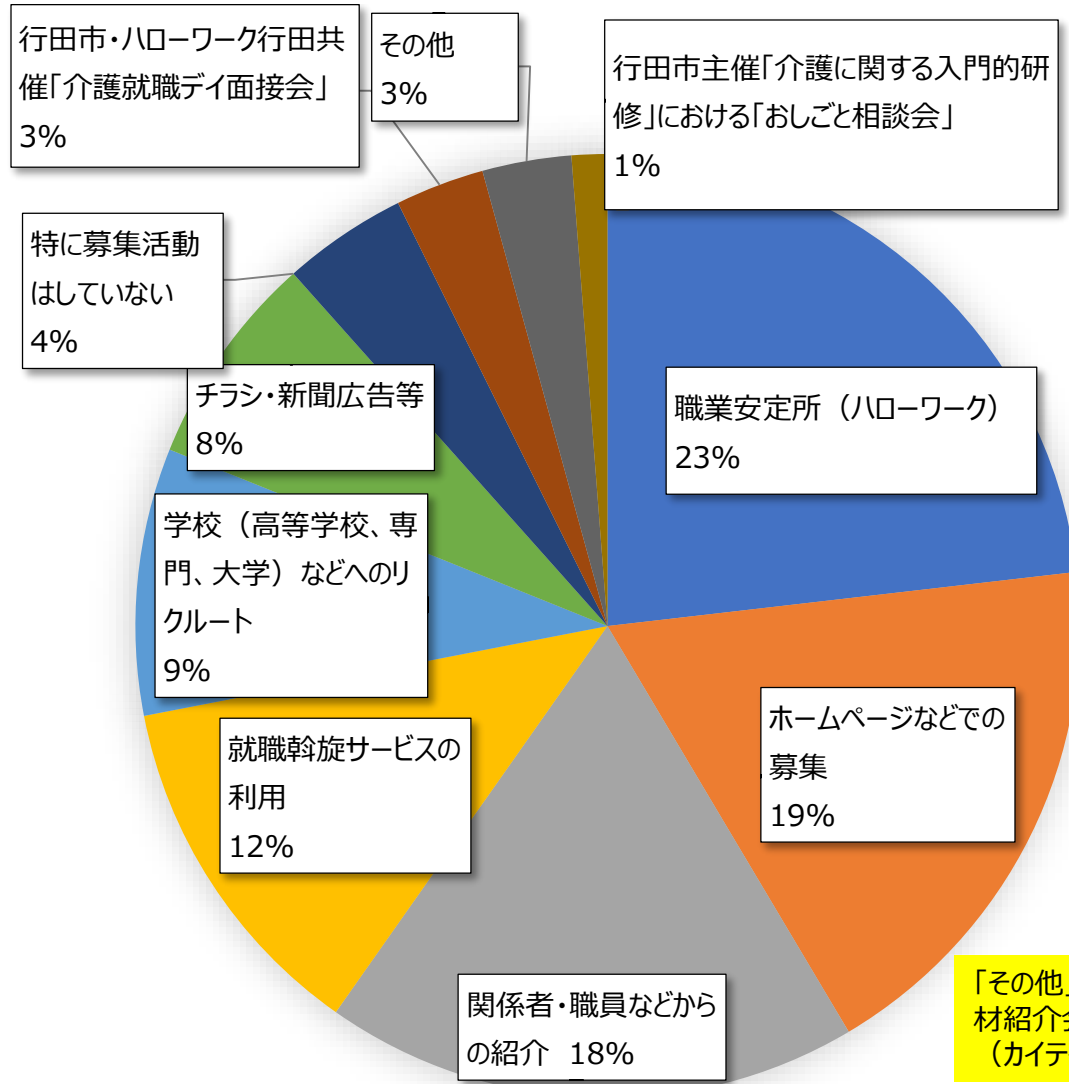
「その他」・・・送迎運転手

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

介護人材確保に係る事業所アンケート

【問2】 主な人材の募集方法は何ですか？（複数回答可）

* 回答数：164



・「職業安定所」、「ホームページなどでの募集」、「関係者・職員などからの紹介」が、いずれも、回答のあった58事業所の半数以上において採用されており、この3つで全体の6割を占めている。

・手数料が割高であるとされる「就職斡旋サービス」も4番目に多くなっており、複数の業種において、採用されている。

・「特に募集活動はしていない」は、居宅介護事業所以外では、通所介護（1事業所）を除き、0回答であり、ほぼすべての事業所において何らかの募集活動を行っている。

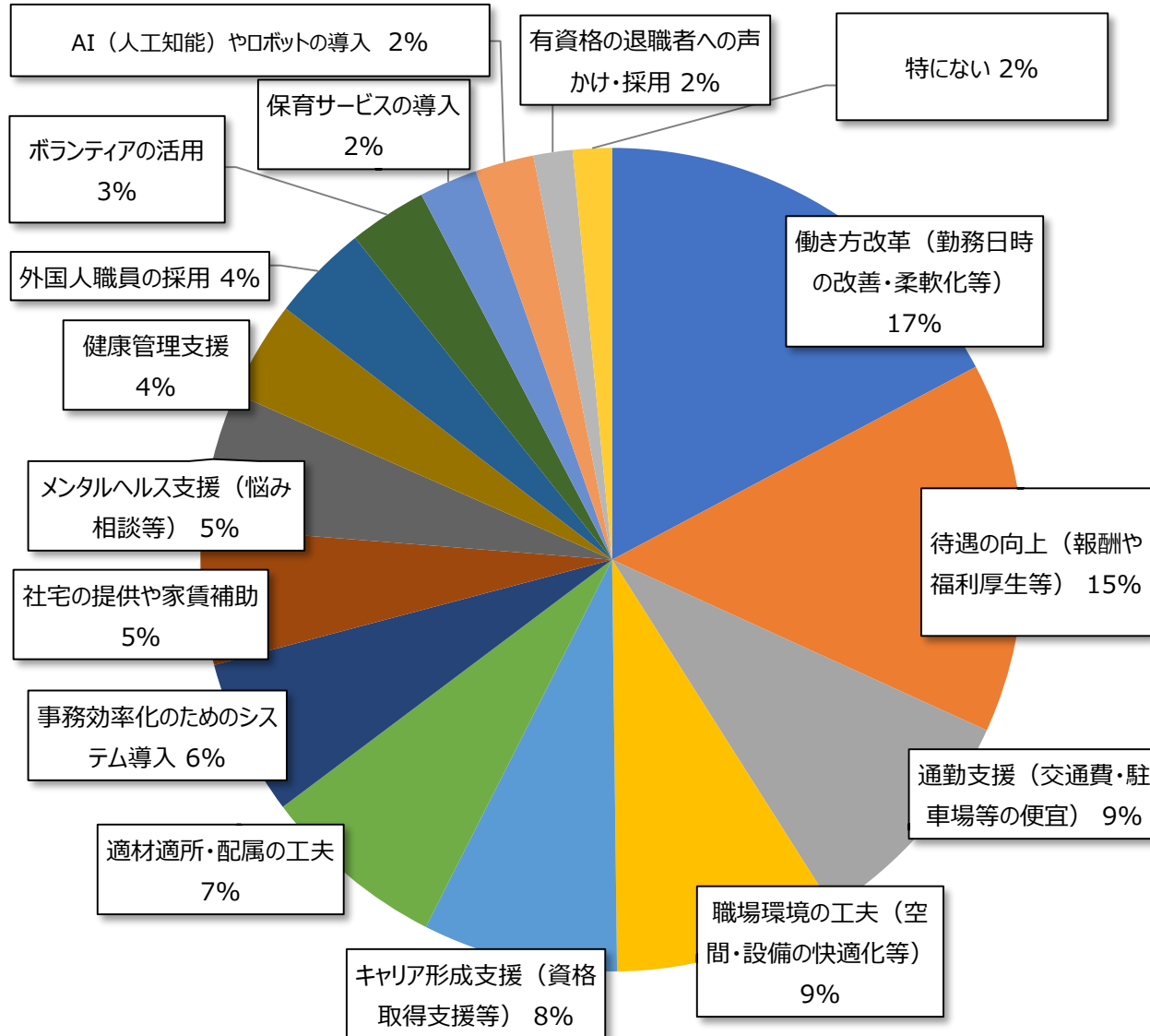
「その他」・・・SNS,ウェブサイト求人への掲載、人材紹介会社からの斡旋、求人媒体、単発バイト（カイク）からのスカウト

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

介護人材確保に係る事業所アンケート

【問3】 離職防止・職場定着のために取り組んでいること（複数回答可）

* 回答数：261

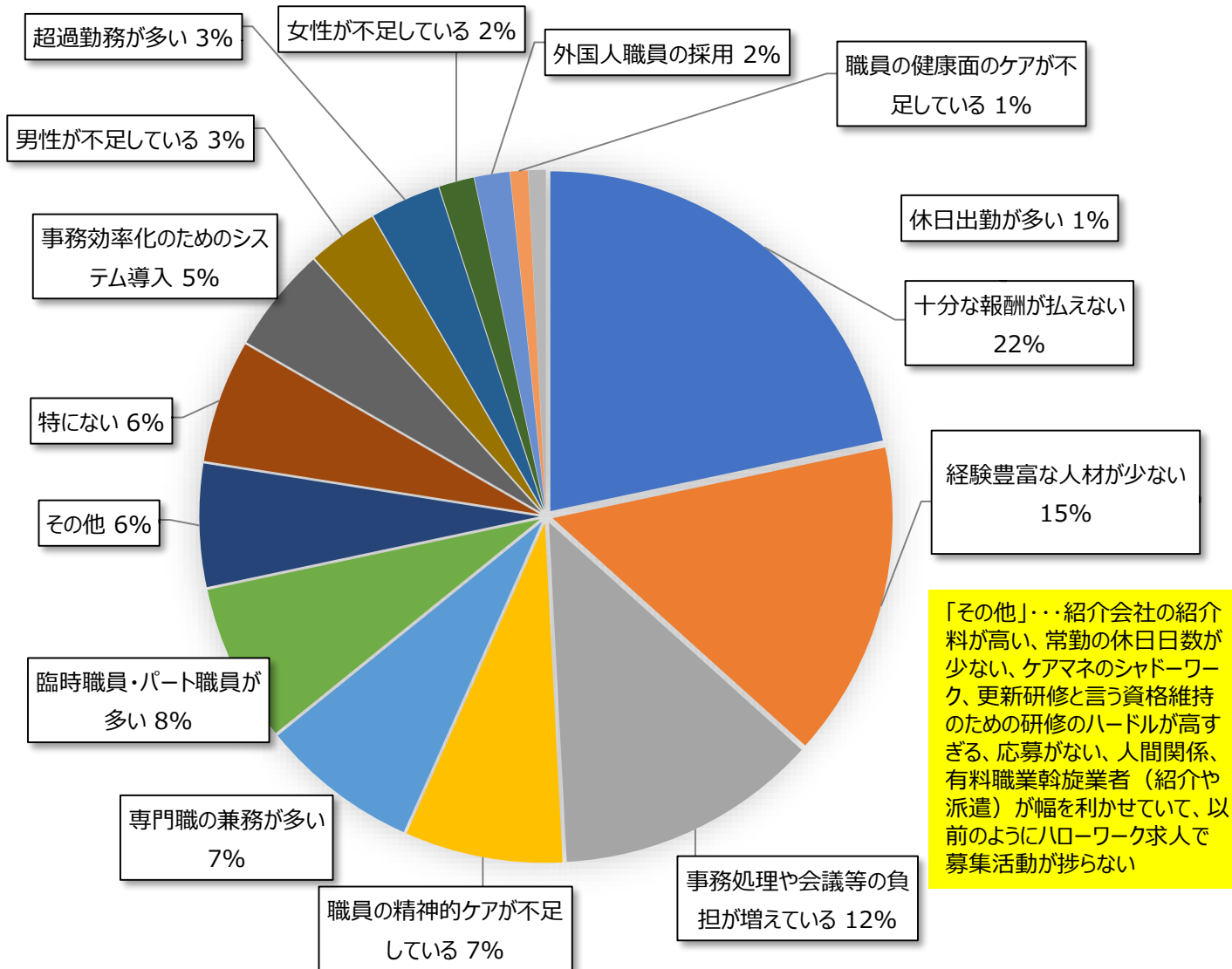


- ・「働き方改革（勤務日時の改善・柔軟化等）」、「待遇の向上（報酬や福利厚生等）」と答えた事業所が全体中では比較的多くなっている。
- ・3番目に多い「通勤支援」以降は、回答数に大きな差が無く、特定の取り組みに偏らず、様々な取り組みを行っていることが分かる。
- ・離職防止・職場定着のために、「外国人を採用している」と答えた事業所は10事業所、「ボランティアを採用している」と答えた事業所は8事業所であり、現時点では、一部にとどまっている。

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

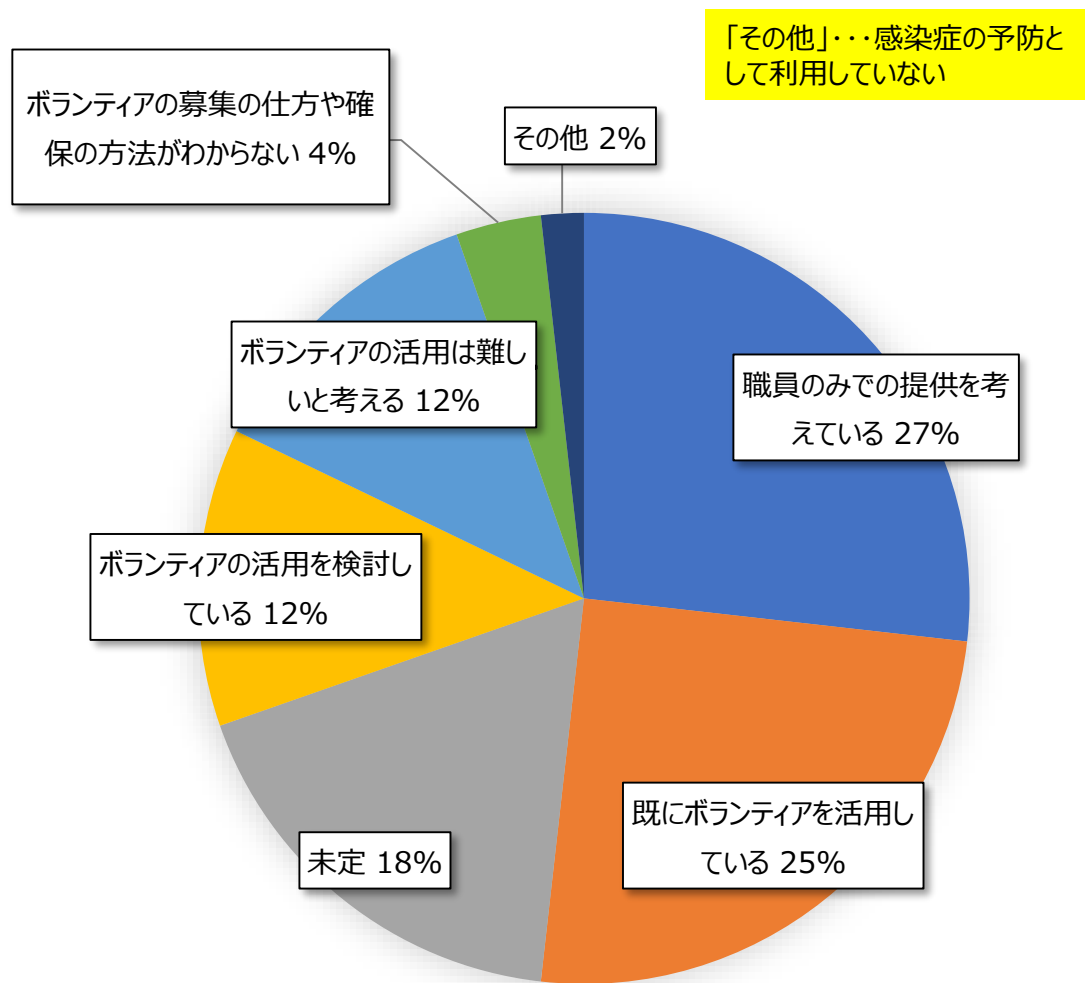
介護人材確保に係る事業所アンケート

【問4】人材の確保・定着面での悩み（複数回答可）＊回答数：120



- 「十分な報酬が払えない」、「経験豊富な人材が少ない」、「事務処理や会議等の負担が増えている」の順で多く、この3つで、全体の約半数を占めている。
- 経験豊富な人材が少ない中、専門職が兼務をしたり、臨時職員・パート職員を増やして対応している状況が伺える。
- 「事務処理や会議等の負担が増えている」ことについては、デジタル化により改善する余地があると考えられるが、「事務効率化のためのシステム導入」に悩みがあるとの回答もある。長期的に見て、効率化・現場の負担減が実現するとしても、導入準備～導入後しばらくの間は、一時的な事務負担が増すことが考えられるので、そこを工夫していくことがポイントとなる。

【問5】 ボランティアの活用状況（複数回答可） ＊回答数：56

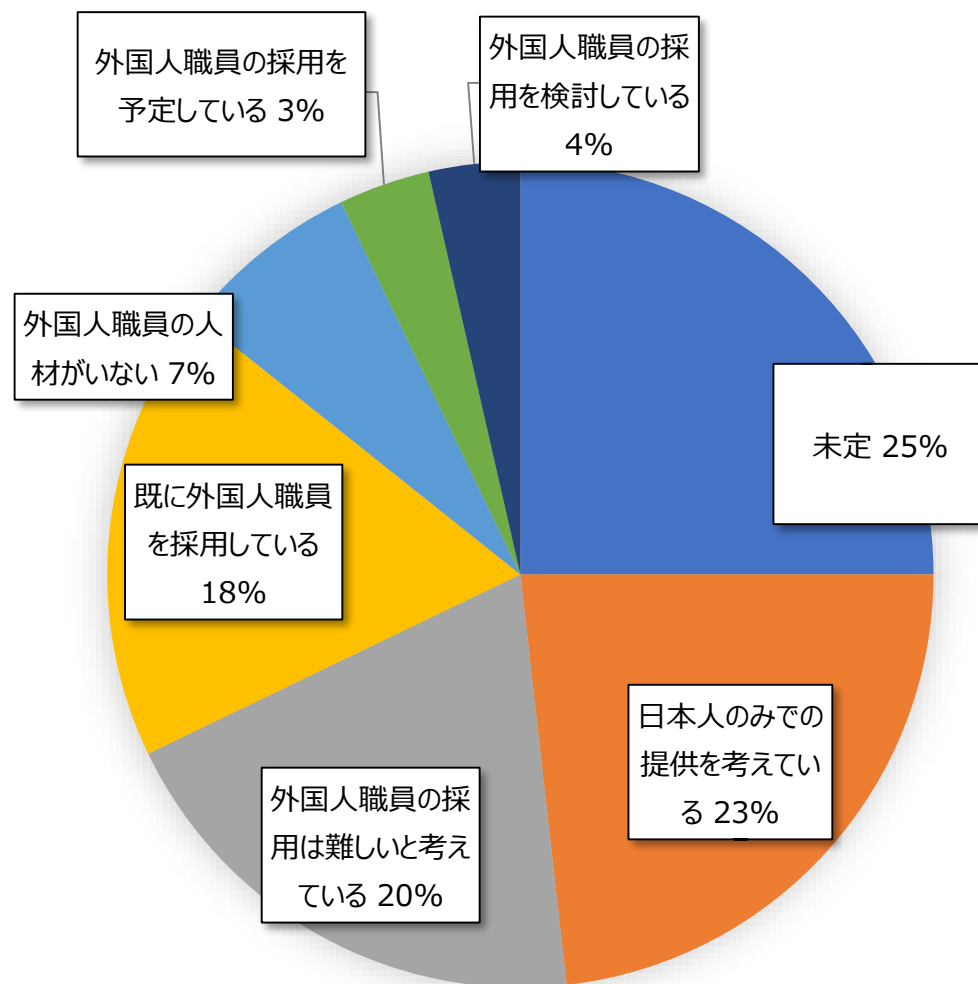


- 「既にボランティアを活用している」「ボランティアの活用を検討している」は合わせて37%であるのに対し、「職員のみでの提供を考えている」「ボランティアの活用は難しいと考える」が合わせて39%となっており、ボランティア活用についての考え方が2つに分かれている。
- いずれの業種においても、専門職が行う仕事以外については、ボランティアの活用の余地はあるため、特に人材が不足している事業所においては、日々の業務を細かく仕分けし、ボランティアにお願いできる部分がないか、検討することも、負担軽減に繋がるものと考えます。
- 検討している事業所は、既にボランティアを活用している事業所から情報を提供してもらうことで、活用につながるのではないかと考えます。

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

介護人材確保に係る事業所アンケート

【問6】外国人職員の採用状況（複数回答可） * 回答数：56

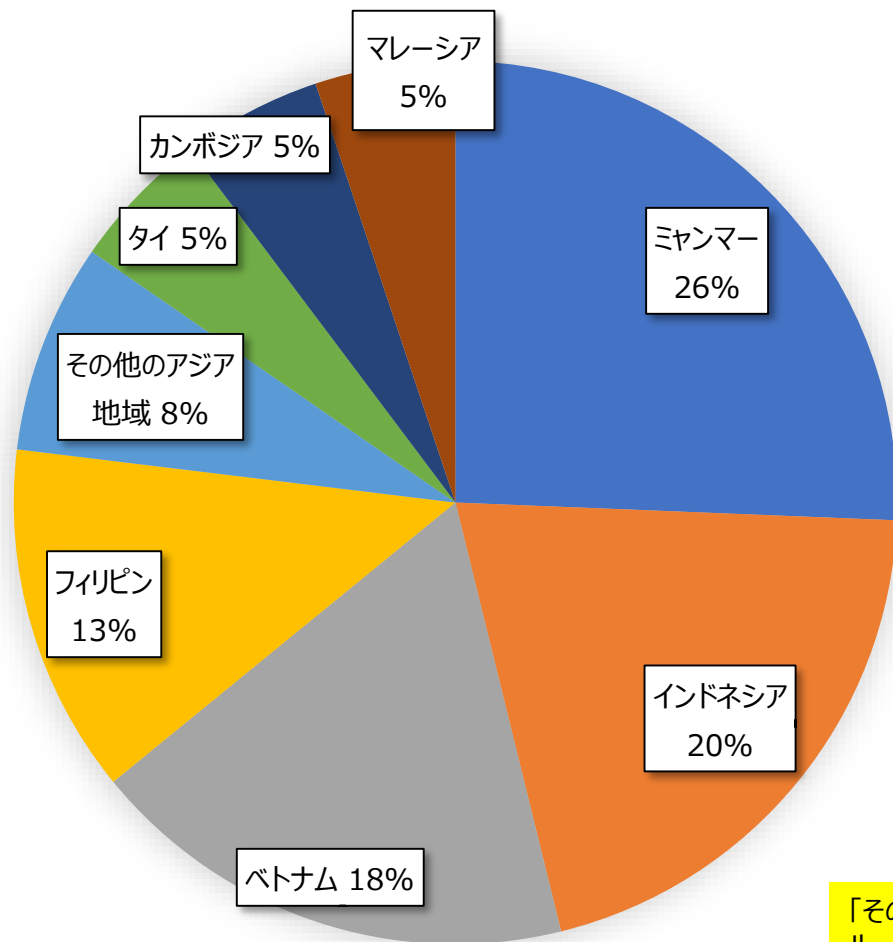


- 一番多いのが「未定」(25%)、続けて「日本人のみでの提供を考えている」(23%)、「外国人職員の採用は難しいと考えている」(20%)と続き、現時点では、外国人職員の採用に関し、消極的な状況であることがわかる。
- 「既に外国人職員を採用している」「外国人職員の採用を予定している」「外国人職員の採用を検討している」は合わせて23%となっている。
- 特養は、回答した全ての施設において、採用（採用予定）となっており、外国人職員の採用が一番進んでいる業種であると言える。
- 既に外国人職員を4名を採用している特養から、外国人職員の採用は、紹介会社へ支払う手数料や管理費等、日本人を採用するよりコストが高くなることもあり、加えて技能実習生であれば5年後は帰国してしまうため、次回の採用は考えていないとの意見もあった。

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

介護人材確保に係る事業所アンケート

【問7】採用（予定）の外国人職員の出身国又は出身地（複数回答可） * 回答数：39



「その他」・・・スリランカ、ネパール、モンゴル

- 「ミャンマー」、「インドネシア」、「ベトナム」、「フィリピン」の順で多くなっている。
- 令和6年度の全国実績では、「インドネシア」、「ミャンマー」、「ベトナム」、「フィリピン」の順となっており、1位と2位が入れ替わっているほかは、同じ状況である。
- 問6で全ての施設が「採用（予定）」と回答した特別養護老人ホーム及び、2番目に多く採用している通所介護は、幅広い国・地域から採用している。
- 採用（予定含む）しているサービス業種は6業種に限られており、現時点では一部にとどまっている。

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

介護人材確保に係る事業所アンケート

【問8】 介護職員の人材の確保に関し、貴施設等のお考えや行政に対する要望、ご意見（自由記載）は別紙のとおり

<アンケートのまとめ>

- ・「介護人材が不足している」と答えた事業所の割合は、前回調査の51%を上回る66%と、状況はより厳しくなっており、早急な改善が必要な状況となっている。
- ・「ハローワーク」、「事業所のホームページ」、「関係者からの紹介」により人材の募集をする事業所が多いが、申込状況が悪く、斡旋サービスを利用しても、高額な手数料が経営を圧迫しているという意見が複数ある。インターネットでの職探しが主流となり、全国的に介護人材が不足する中で、自らの事業所を見つけてもらうことは容易ではなく、募集の手法については、費用対効果を含め十分に検討する必要がある。また、公的機関の支援を求める声がある。
- ・事務的な業務については、デジタル化により職員の負担軽減に繋げることが期待される。令和8年度以降順次全国的に対応を予定している介護情報基盤の開始により、多くの事業所においてデジタル化が進むものと想定している。
- ・ボランティアは、専門職でなくてもできる業務において活用することで、デジタル化と同様に、職員の負担軽減を図ることができるものと考え、活用している」、「活用を検討している」が合わせて37%にとどまっている。現時点では活用の予定がない事業所においても、既に活用している事業所から実際のケースを聞くことで、活用先を見出すこともあるのではと思われる。
- ・外国人職員の採用については、様々な意見が寄せられ、回答も2つに割れた形となった。「人材不足ではあるが、外国人は採用にあたり日本人以上に費用が掛かるうえ、5年で母国に帰ってしまうことも多く割に合わない」、「利用者が、コミュニケーション上の問題から、日本人職員に介護されることを希望している」、といった意見もあった。また、「特定技能1号の外国人については、日本人の常勤職員の数を超えての雇用ができない」という制度上の制約が雇用を困難にしているという意見もあった。
賛成する意見としては、「すぐに辞めてしまう日本人も多いなかで、5年間は辞めずに働いてもらえる」という意見もあった。外国人職員の採用については、様々な考えや意見があり、検討すべき点も多いと感じた。今後、日本人の人材不足が一層進む中で、外国人職員の採用の必要性は増していくと思われる。

基本目標2 健康でいきいきとした高齢者を増やし、介護を必要とする人を抑制する。

重点目標 令和8年度に要介護・要支援認定率を15.4%以下にする。

【重点事業】

**目標
具体的な
目標**

各種検診の受診促進の強化

行田市国民健康保険保健事業実施計画、行田市健康増進・食育推進計画にて実施

① がん検診

- ・対象者全員に受診券とともに個別通知を発送
- ・LINEやホームページから周知を実施
- ・集団検診会場をそれまでの1か所から市内5か所へ拡大
- ・国が推奨する5大がん検診の自己負担費用を無償化

受診者数・受診率※

実施内容		実績	
各年度目標値		令和6年度	R7年度 令和7年10月末現在
胃がん検診	1,300人 (2.5%)	865人 (1.7%)	1,009人 (1.9%)
乳がん検診	1,200人 (4.5%)	1,137人 (4.2%)	1,182人 (4.4%)
子宮がん検診	1,000人 (2.9%)	714人 (2.1%)	1,281人 (3.8%)
肺がん検診	1,300人 (2.5%)	1,165人 (2.2%)	445人 (0.9%)
大腸がん検診	4,500人 (8.6%)	3,817人 (7.3%)	2,520人 (4.8%)

※本計画上の受診率 = 受診者数 / 検診対象者年齢の1月1日時点人口
胃がん及び子宮がんは、令和6年度より2年に1度の受診に変更。

② 歯周病検診

対象者全員に受診券を送付し、周知を図った。

受診者数

実施内容		実績	
各年度目標値		令和6年度	R7年度 令和7年10月末現在
歯周病検診 受診者数	270人	272人	55人

③ 肝炎ウイルス検診

検診一覧に掲載し、周知を図った。

受診者数

実施内容		実績	
各年度目標値		令和6年度	R7年度 令和7年10月末現在
肝炎ウイルス検 診受診者数	30人	57人	33人

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画重点事業の進捗状況

基本目標2 健康でいきいきとした高齢者を増やし、介護を必要とする人を抑制する。

重点目標 令和8年度に要介護・要支援認定率を15.4%以下にする。

【重点事業】

目標 具体的な 目標

各種検診の受診促進の強化

行田市国民健康保険保健事業実施計画、行田市健康増進・食育推進計画にて実施

令和7年度の取組み

④特定健康診査・特定保健指導及び後期高齢者健康診査

- ・がん検診と一緒に集団検診を実施
- ・【特定健康診査】受診勧奨事業の実施(AIを活用した勧奨ハガキの作成及び送付、経年結果付き通知電話勧奨)、診療情報提供の実施。ポスター掲示やチラシの作成、民生委員を通じたPR、デジタルサイネージでPR活用

※目標値設定なし

		令6年度実績	令和7年度実績 令和7年10月末時点
特定健康 診査	対象者数	11,344人	12,515人
	受診者数	4,490人	1,596人
	受診率	39.60%	12.80%
後期高齢 者健康診 査	対象者数	13,139人	12,900人
	受診者数	3,316人	1,223人
	受診率	25.20%	9.48%

後期高齢者医療制度に加入の皆様へ

後期高齢者健診

生活習慣病の早期発見や介護予防のための健診です。
~毎年の健診で健康寿命を延ばしましょう!~

令和7年 令和8年
実施期間 **6月2日~2月28日**

費用 **無料** (年齢を重ねても健康に過ごしましょう!)

※市内の実施医療機関に予約の上、保険証、受診券を持参して受診してください。

受診券は5月末に郵送しています。

- 年齢途中に75歳になる方は、保険証と一緒に受診券をお送りしています。
- 施設入所中の方は受診できません。
- 65歳以上75歳未満の方で後期高齢者医療制度に加入の方も対象です。
- お手元に受診券がない方は、下記までお問い合わせください。

<問い合わせ>
行田市役所健康課 ☎556-1111 (内線 361~364)

基本目標2 健康でいきいきとした高齢者を増やし、介護を必要とする人を抑制する。

重点目標

令和8年度に要介護・要支援認定率を15.4%以下にする。

【重点事業】

目標

高齢者保健事業と介護予防の一体的事業の推進

具体的な目標

令和7年度は5圏域の日常生活圏域のうち3圏域で健康状態不明者を対象とした個別的支援と通いの場を活用した栄養・口腔等のフレイル予防などの健康教育・健康相談を実施

実施内容

実績

高齢者保健事業と介護予防の一体的事業の推進

行田市シルバー人材センターや歯科衛生士へ依頼し、フレイル予防教室や口腔講座を実施。健康状態不明者へはアンケートを送付。

高齢者対象の健康教室	令和6年度		令和7年度 R7年10月末現在	
	目標	実績	目標	実績
実施圏域数	2	2	3	3

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

基本目標2 健康でいきいきとした高齢者を増やし、介護を必要とする人を抑制する。

重点目標	令和8年度に要介護・要支援認定率を15.4%以下にする。
------	------------------------------

目標 具体的な 目標	通いの場（通える場）での介護予防活動を拡大する ・ご近所型介護予防事業（100歳体操、リズム体操等の運動を組み合わせたもの） 令和5年度 14か所 ⇒ 令和8年度 30か所（1年度に6か所ずつの増） ・住民主体の介護予防に資する活動（文化、スポーツ、レクリエーション等）の場を市内120か所以上維持する ・通いの場への移動手段を創設し、通える環境を整備する
------------------	--

実施内容	令和6年度 実績	令和7年度 実績 <small>令和7年10月末現在</small>
ご近所型介護予防事業実施か所数	18か所	20か所（現在、3団体伴走支援中）
住民主体の介護予防に資する活動数	ご近所型介護予防事業（100歳体操）18か所 公民館活動 87クラブ グランドゴルフ 25か所 いきいきサロン 70か所 合計200か所	ご近所型介護予防事業（100歳体操）20か所 公民館活動 77クラブ グランドゴルフ 23か所 いきいきサロン 70か所 合計190か所
通いの場への移動手段、通える環境の整備	「通いの場移動支援事業補助」社会福祉法人1法人で実施（R7.2月～）	・「通いの場移動支援事業補助」社会福祉法人3法人で実施（R7.4月～） ・「通いの場乗合型AIオンデマンド交通利用補助金」公共施設3施設（やすらぎの里、永寿荘、南河原荘）を通いの場として、AIオンデマンド交通を利用して来所した場合に、片道分をチケット形式で補助する（R7.4月～）

第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 重点事業の進捗状況

基本目標2 健康でいきいきとした高齢者を増やし、介護を必要とする人を抑制する。

重点目標	令和8年度に要介護・要支援認定率を15.4%以下にする。
------	------------------------------

目標

具体的な目標

通いの場（通える場）での介護予防活動を拡大する

- ・ご近所型介護予防事業（100歳体操、リズム体操等の運動を組み合わせたもの）
令和5年度 14か所 ⇒ 令和8年度 30か所（1年度に6か所ずつの増）
- ・住民主体の介護予防に資する活動（文化、スポーツ、レクリエーション等）の場を市内120か所以上維持する
- ・通いの場への移動手段を創設し、通える環境を整備する

実施内容	令和6年度実績	令和7年度実績 <small>R7年10月末現在</small>
------	---------	-------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・新規設置2か所、解散5か所 ・いきいきサロンへのアンケート調査の実施（回答52サロン） ・いきいきサロンの協力員研修会にていきいきサロン間の情報交換会を実施（参加53サロン・53人） ・いきいきサロン会員からの出前講師（自薦・他薦）の募集（折り紙講師、花手水づくり講師等 新規3人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規設置1か所、解散2か所 ・いきいきサロンの協力員研修会にていきいきサロン間のサロン交流会を実施（参加53サロン・85人） ・いきいきサロン会員からの出前講師（自薦・他薦）の募集 ・サロン数 70サロン
--	---	--

総合福祉会館における各種事業の充実

	令和6年度		令和7年度（R7年10月末現在）	
	目標	実績	目標	実績
機能回復訓練室（障がい者を含む）	14,000人	11,052人	14,500人	7,421人
プール	8,000人	5,993人	8,500人	3,935人
水中ウォーキング	40人	0人	40人	0人
陶芸教室	110人	78人	110人	123人
水泳教室	40人	37人	40人	38人
脳トレ体操教室	100人	57人	105人	11月開催予定